

長良川河口堰について



独立行政法人 水資源機構
長良川河口堰管理所

長良川河口堰位置図



長良川河口堰(河口から5.4km)

木曾三川の治水事業の変遷

■ 輪中と御囲堤

おかいづつみ

慶長14年(1609)に、尾張藩が木曾川左岸の犬山から弥富まで約50kmの大堤防を築いた。これにより美濃側が洪水の被害を受けやすくなった。



■ 宝暦治水

江戸幕府は宝暦3年(1753)に揖斐川・長良川の分流を目的とし、三つの治水工事を行うことを決定、薩摩藩にこの工事を行うよう通達。薩摩藩の家老平田靱負は翌年から2ヶ年かけて油島締切工事などを多額の費用と犠牲者を出し完成させた。



■ 明治改修

明治政府が招いたオランダ人技術者ヨハネス・デレーケの指導のもと、精力的な現地踏査に基づいて改修計画が策定されました。明治20年(1887)から25年間をかけて三川分流工事が行われ、木曾三川はほぼ現在の姿になり、ようやく洪水被害が大幅に少なくなることになった。

